

6 Measles

Measles

Measles is caused by measles virus, transmitted by droplet infection; i.e., an air-borne infection. As the infection becomes stronger, many people catch the disease unless they receive vaccination. Its symptoms are severe, including high fever of 39-40°C and rash. Measles is sometimes complicated by pneumonia, otitis media, bronchitis, and acute encephalitis (inflammation of the brain), of which some patients may die. The mortality rate; i.e., the ratio of people who die, of the disease is one per several thousand persons infected with measles. There is no means of prevention other than vaccination. Japan declared to achieve elimination of measles by 2012.

☆ *Who should receive measles vaccine?*

Starting from April 2008, vaccination is administered to children aged one year (the 1st phase), to older children one year before admission into the elementary school (the 2nd phase), to junior high school first-year students aged 12 to 13 years (the 3rd phase) and to high school third-year students aged 17 to 18 years (the 4th phase). The vaccine used is either mixed measles and rubella (MR) vaccine or measles vaccine alone. In principle MR vaccine is preferred to use.

7 Rubella (German Measles)

Rubella (German Measles)

Rubella is an infectious disease caused by the rubella virus with an epidemic season ranging from early spring to the beginning of summer. Its symptoms include rashes, fever, and swelling in the posterior cervical lymph nodes. If non-immune pregnant women contract the disease in their first trimester, their infants may be born with congenital rubella syndrome, manifested by cataracts, heart disease, hearing loss and other disorders. The only prevention measure is to have a vaccination.

☆ *Who should receive rubella vaccine?*

From April 2008, either the combined measles/rubella (MR) vaccination or the rubella vaccination is administered in the following phases. Phase 1: 1 year-olds. Phase 2: children in the academic year (April 1 – March 31) prior to the year they begin elementary school. Phase 3: 1st grade junior high school-aged children. Phase 4: 3rd grade high school-aged children. In general, the combined MR vaccination is administered.

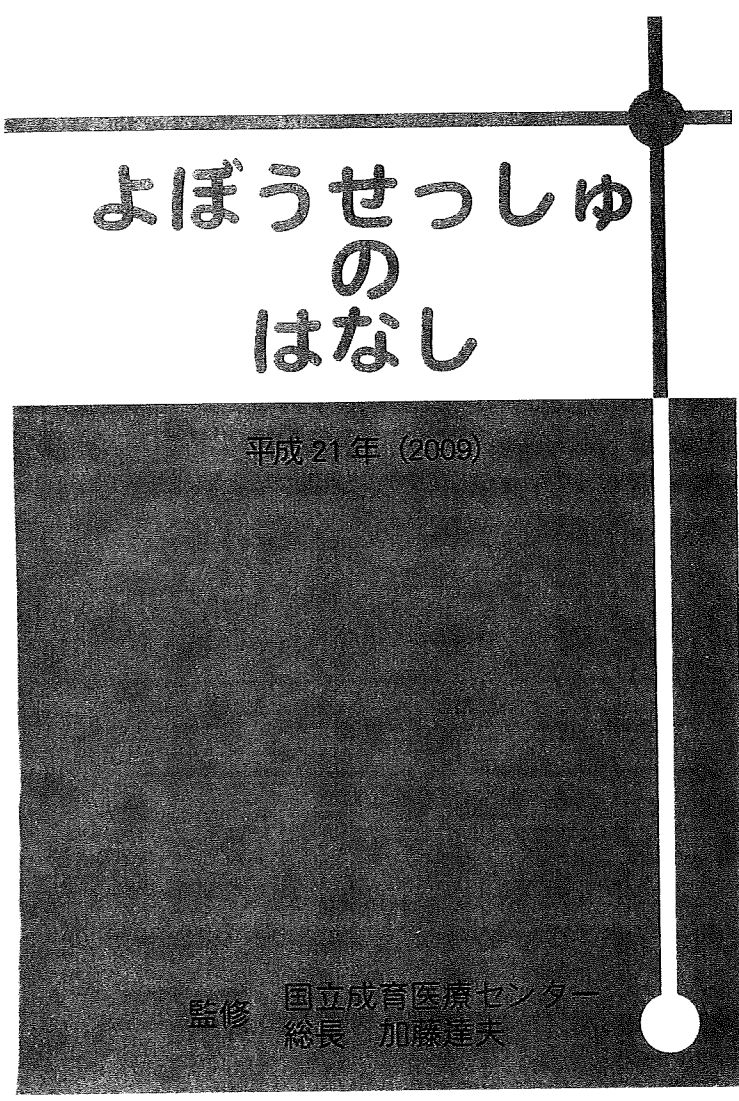
12 Varicella (Chicken Pox)

Varicella (chicken pox)

Varicella (chicken pox) is caused by varicella-zoster virus infection. People contract the disease mostly before reaching adulthood. Children with leukemia, malignancy, and nephrosis who are treated with steroid hormones have weak immunity. Therefore, if such children contract varicella-zoster virus, symptoms are prone to develop into critical conditions. When a woman in the early stage of pregnancy contracts varicella, miscarriage will very likely occur. If she is in a late stage of pregnancy, her newborn baby may not live. It is important to receive varicella vaccine.

☆ *Who should receive varicella vaccine?*

By the age of 5 years, 80% of children contract varicella. Children over 12 months of age can receive varicella vaccine.



よぼうせつしゅ
の
はなし

平成 21 年 (2009)

監修 国立成育医療センター
総長 加藤達夫

2 百日せきの話

百日せきの話

百日せきは百日せき菌の飛沫感染^{ひまつかんせん}で起こり、普通のかぜのような症状で始まり、続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続性にせきこむようになります。

熱は出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、けいれんがおこることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症をおこし、乳児では命をおとすこともあります。

◎ワクチンの接種対象

百日せきのワクチン接種はDPT三種混合ワクチンで生後3カ月から接種できます。接種回数が多いので、接種もれに注意してください。

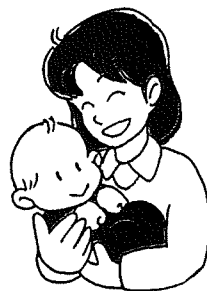
3 ジフテリアの話

ジフテリアの話

ジフテリアは、国内ではほとんど発症をみていませんが、ロシアなどで以前流行がありました。かかると重い病気で呼吸困難をおこして死亡率は10%以上です。心臓や神経がおかされ心臓麻痺や神経麻痺をおこすことがあって、大変危険です。ワクチンで予防できます。

◎ワクチンの接種対象

乳幼児に対する予防はDPT三種混合ワクチン、DT二種混合トキソイドで生後3カ月から接種できます。成人には成人用ジフテリアトキソイドがあります。



4 破傷風の話

破傷風の話

破傷風は、ケガをしたときに傷口から破傷風菌が入っておこる病気です。傷口が小さくても危険です。破傷風菌の出す毒素は、神経麻痺、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などをおこします。発病した場合は、死亡率が高い病気で、予防はワクチン接種が最も有効です。早めに予防接種を受けて免疫をつけることが大切です。

◎ワクチンの接種対象

破傷風のワクチン接種は、DPT 三種混合ワクチン、DT 二種混合トキソイド、沈降破傷風トキソイドで生後3カ月から接種できます。



6 麻疹（はしか）の話

麻疹（はしか）の話

麻疹は麻疹ウイルスの空気感染^{くうまかんせん}によっておこり、感染力が強く予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。麻疹にかかると39～40℃の高熱と発しんが見られ、ときに肺炎・中耳炎^{ちゅうじえん}・気管支炎^{きかんしえん}・脳炎^{のうえん}などの合併症を併発^{へいはつ}し死亡することもあります。麻疹にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。予防はワクチン接種以外ありません。日本は2012年までに国内からの麻疹排除を目指しています。

◎ワクチンの接種対象

平成20年4月からは、第1期：1歳児、第2期：小学校入学前1年間の小児、第3期：中学校1年生に相当する者、第4期：高校3年生に相当する者に麻疹風しん混合（MR）ワクチンまたは、麻疹ワクチンを接種します。原則としてMRワクチンを接種します。

7 風しんの話

風しんの話

風しんは風しんウイルスでおこり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹を主な症状とする感染症で、流行期には春先から初夏にかけて多くの患者発生が見られます。免疫のない妊婦が妊娠初期にかかると白内障・心疾患・難聴等の先天性風疹症候群児が出生することがあります。予防はワクチン接種以外ありません。

◎ワクチンの接種対象

平成20年4月からは、第1期：1歳児、第2期：小学校入学前1年間の小児、第3期：中学校1年生に相当する者、第4期：高校3年生に相当する者に麻しん風しん混合（MR）ワクチンまたは、風しんワクチンを接種します。原則としてMRワクチンを接種します。

12 水痘（みずぼうそう）の話

水痘（みずぼうそう）の話

水痘は伝染力の強い水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる病気です。そのほとんどが成人になるまでにかかります。特に白血病・悪性腫瘍・ネフローゼ患児等でステロイドホルモン剤などを服用し免疫状態の悪い小児がかかると重篤になりやすく症状によっては大変危険です。妊婦がかかると妊娠初期では流産したり、妊娠後期では新生児が死亡したりすることもあります。ワクチンによる予防が大切です。

◎ワクチンの接種対象

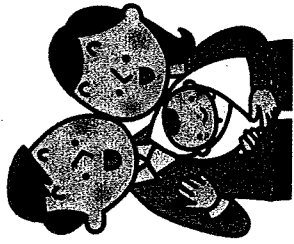
水痘は5歳までに約80%の子どもがかかると言われています。1歳の誕生日を過ぎたら任意接種として受けることができます。

受けましょう!
子どもの
予防接種
～感染症から子どもを守るう～

著／加藤運夫（国立成育医療センター総長）



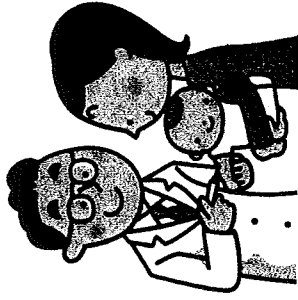
赤ちゃんはお母さんからもらった免疫をもっていますが、数か月で失われてしまいます。子どもを感染症から守るために、予防接種への正しい知識をしっかりと身につけ理解し、予防接種を受けましょう。



予防接種の目的とは？

感染症の中には、かかると重症化したり、後遺症が残ったり、ときには命にかかわる病気もあります。予防接種の目的は、それぞれの感染症ごとに、病気にかかるとを防いだり、かかったとしても症状が軽く済むようにすることです。

病気の原因となるウイルスや細菌の毒素を弱めるなどしてワクチンをつくり、これに体に接種して、その病気に対する免疫をつけます。



目次	
予防接種の目的とは？	3
予防接種と副反応	3
予防接種の種類	4
接種年齢	4
予防接種の受け方	5
ワクチンの種類	5
予防接種スケジュールを確認しましょう	6
スケジュールを立てるポイント	9
知っておきたい予防接種別基礎知識	9
予防接種にいく前のチェック	12
こんな場合は受けられません	12
注意が必要なお子さん	13
予防接種を受けたあとの注意事項	13
予防接種による健康被害救済制度	裏表紙

予防接種と副反応

副反応とは、予防接種によって起こる副作用のことです。現在日本で使用されているワクチンは、安全性が高く、副反応が起こることは少ないと考えられています。予防接種と聞くと副反応が心配なため、消極的な保護者もいるようですが、副反応が起こるリスクよりも、感染症にかかるリスクのほうが高く、命にかかわることさえあるのです。

ただし、ごくまれにですが、副反応による重篤な健康被害が発生する場合もあることは知っておきましょう。また、体質によっては、副反応が生じる場合もあり、事前に医師への確認が必要な場合もあります(13ページ「注意が必要なお子さん」参照)。



予防接種の種類

予防接種には、定期接種と任意接種と任意接種があります。

定期接種

予防接種法によって定められている予防接種。法律で定められた年齢内であれば、原則、無料で受けられます。

※期間を過ぎると、任意接種扱いとなり、有料になります。

任意接種

予防接種法で定められていない予防接種や、定期接種を定められた期間を過ぎて受ける予防接種。個人の意志で受けるもので、費用は有料となり、料金は医療機関によって異なります。

※一部の予防接種では補助金が出る市区町村もあります。

有料だから
必ず受けよう

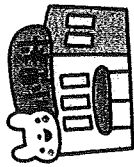


予防接種の受け方

予防接種の受け方には、個別接種と集団接種があります。

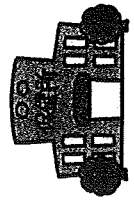
個別接種

小児科などのかかりつけ医（診療所・病院）にいて、個人個人で予防接種を受けます。



集団接種

市区町村から指定された日時に保健所などで集団で予防接種を受けます。



接種年齢

予防接種には、ワクチンごとにそれぞれ接種に適した時期があります。定期接種では、接種が定められている年齢と標準的な接種年齢があります。

接種が

定められている年齢
(無料で受けられる年齢)

予防接種法によって接種を勧奨されている年齢。この期間内だと、原則、無料で受けられます。

標準的な接種年齢

(医学的に接種をおすすめする年齢)

病気にかかりやすい時期を考慮して、できればこの期間に積極的に受けるように勧奨されている年齢。なるべく、標準的な接種年齢に受けるようにしましょう。

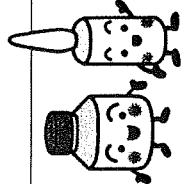


ワクチンの種類

予防接種で使うワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンの2種類があります。

生ワクチン

生きた細菌やウイルスの毒性を弱めたワクチン。これを接種することによって、ごく軽く感染させたような状態にし、発症せずに、免疫をつけます。十分な免疫ができるのに約1か月必要です。



不活化ワクチン

細菌やウイルスを殺し、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して毒性をなくしてつくったワクチン。細菌やウイルスは体の中で増えないため、十分な免疫をつけるために、一定の間隔で2~3回接種し、1年後に追加接種し、さらに必要に応じて追加接種をします。

予防接種スケジュールを確認しましょう

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳
予防接種名														
接種回数 接種方法														
ワクチンの種類														
BCG														
三種混合 (DPT)														
ポリオ														
麻疹風しん混合 (MR)														
日本脳炎														
B型肝炎														
インフルエンザ (Hib)														
小児用肺炎球菌 (2010年4月頃から)														
インフルエンザ (季節性)														
水ぼうそう (水痘)														
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)														

と は接種が定められている年齢 (無料) で受けられる年齢) です。なるべく標準的な接種年齢 (医学的に接種をおすすめする年齢) である の期間中に接種を受けるようにしましょう。

(1) 予防接種と子どもの健康 | 執筆、監修: 予防接種ガイドライン等検討委員会 / 発行: 財団法人予防接種リサーチセンター | より一部引用

スケジュールを立てるポイント

接種可能な時期になったら、なるべく早く受けましょう
かかりやすく重症化しやすい病気や流行している病気の予防接種を優先に
複数回受けるものは、忘れず予定を次の接種までの日数の間隔の確認を

違う種類のワクチンを接種する場合の間隔

生ワクチン 27日以上あける
不活化ワクチン 月曜日に接種したら、4週間後の月曜日に別のワクチンの接種が可能。

生ワクチン 6日以上あける
不活化ワクチン 月曜日に接種したら、1週間後の月曜日に別のワクチンの接種が可能。

※同じ種類のワクチンを複数回接種する場合には、それぞれ定められた間隔があるので、誤らないようご注意ください。

病気にかかった場合の間隔

麻疹は治ってから4週間程度、風しん・水ぼうそう・おたふくかぜなどは治ってから2～4週間程度、突発性発疹・手足口病・伝染性紅斑(りんご病)などは治ってから1～2週間程度あけてから接種してください。ただし、接種の際は、あらかじめ医師に相談を。

知っておきたい予防接種別基礎知識

予防接種名	予防できる病気	副反応	注意要点
BOG	結核を予防。結核は母親から免乳でさえも伝染することもある。主な症状は、せきや発熱、食欲不振、手足のまひなどで、乳児ではせきが出ないこともある。低月齢で発症すると、重症化しやすく、結核性髄膜炎や重い後遺症が起こったり、また命にかかわることも。	接種後10日頃、接種部位に赤いポツポツができ、小さく腫れ上がることがある。通常は3か月まで自然に治るが、3か月過ぎても腫れている場合は受診を要する。また、まれにわきの下のリンパ節が腫れることがある。自然に治らない場合は受診を要する。	接種後10日以内に接種部位が赤く腫れた場合(コップ水程度)は、接種前に結核に感染していた可能性がある。すみやかに市区町村や医療機関に相談を。
三種混合(DPT)	ジフテリア(D)、百日ぜき(P)、破傷風(T)を予防。ジフテリアは発熱やのどの腫れなどの症状が出て、重症化すると心筋障害や窒息も、百日ぜきではせきが長く続き、乳児は重症になりやすく、肺炎や脳症などの合併症を起こすことも。破傷風は傷口から感染し、筋肉の硬直や呼吸まひを起こす。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。まれに発熱することもある。	回数が多いので接種頻りに注意する。間隔があいてしまった場合は、市区町村や医療機関に相談を。
ポリオ	ポリオ(急性灰白髄炎)＝小児まひを予防。重症化すれば手足の麻痺や呼吸困難、重症になると手足がまひが出る。日本では自然感染が見られなくなってきたが、海外で感染したり、海外からウイルスが持ち込まれる可能性がある。	ほとんどない。接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。	接種後はワクチンのウイルスが便中に混ざって排泄されるので、約1か月間は便をしたオムツの取り扱いに注意し、始末のあとは手をよく洗うこと。
麻疹・風しん混合(MR)	麻疹(はしか)、風しんを予防。麻疹は感染力が強く、発熱やせきに似た症状から始まり、赤い発疹が全身に広がる。高熱が1週間程度続き、重症化すると肺炎や気管支炎、中耳炎、脳炎などの合併症を起こすことも。風しんは発熱や発疹が出て、通常は3日で治まるが、重症化すると脳炎や関節痛などの合併症を起こすことも。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。また、じんましんやリンパ節の腫れが見られることもある。まれにアナフィラキシーや血小小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどが現れることも。	麻疹または風しんのいずれかにかかった場合にも、麻疹・風しん混合ワクチンの使用が可能。カンマワクチン製の注射を受けたことがある人は、接種時期について主治医と相談を。
日本脳炎	日本脳炎を予防。日本脳炎ウイルスをもっているぶたを刺した蚊に刺されることで感染。感染者のうち、1千～5千人に1人が脳炎を発症し、高熱や意識障害、けいれんなどが出る。神経の後遺症が残ることや、命を落とすことも。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。まれに発熱することもある。国内では初の医薬品となることから、重篤な副反応情報については、情報収集・解析が待たれる。	接種後21年11月の時点で継続中だが、希望すれば定期接種として受けられる。ただし、現時点では、新ワクチンは1期に限り定期接種として接種可能で、2期は旧型ワクチンを使用。
B型肝炎	B型肝炎を予防。B型肝炎ウイルスが肝臓を起す。一部は長い年月がたつてから肝硬変や肝がんを引き起こすことも。	ほとんどない。まれに接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。	新生児で母子感染を予防するために生後1か月以内に接種が推奨される。家庭にキャリアがいる場合は受けたい場合は、医師が必ず認めた場合に接種可能。
インフルエンザ(インフル)A型・B型	インフルエンザA型・B型を予防。細菌性髄膜炎や肺炎、敗血症などを予防。近年の日本では、後遺症が出た例や、死亡例もある。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。	三種混合との同時接種が可能。ただし、医師が必ず認めた場合に接種可能。
小児用肺炎球菌	肺炎球菌が引き起こす細菌性髄膜炎や肺炎、重症化すると、水ぶくれに似た症状が出る。インフルエンザを併発することもある。また、インフルエンザによる肺炎や中耳炎になる。重症化しやすく、インフルエンザが重症化することもある。インフルエンザを併発することもある。また、インフルエンザによる肺炎や中耳炎になる。重症化しやすく、インフルエンザが重症化することもある。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。	ワクチンは鶏卵を使ってつくられるため、卵アレルギーのある人は接種に注意が必要。事前に主治医に相談を。
水ぼうそう(水痘)	水ぼうそうを予防。発症すると、かゆみを伴った発疹が出て、水ぶくれに似た症状が出る。発熱や、まれに肺炎などの合併症を引き起こすことも。予防接種を受けてもかかるとは、軽症で済む。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。	保育園など集団生活が始まる際には、受けることをおすすめ。
おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)	おたふくかぜを予防。発熱後、耳下腺や顎下腺などの腫れが1週間ほど続く。合併症として無菌性髄膜炎や脳炎、難聴などがある。予防接種を受けてもかかるとは、軽症で済む。	接種部位の赤みや腫れ、しこりなどが見られることがある。まれに2～3千人の割合で無菌性髄膜炎を起こすこともある。	保育園など集団生活が始まる際には、受けることをおすすめ。

予防接種にいく前のチェック

- お子さんの体調はふだんと変わりありませんか？
予防接種は体調がよいときに受けるのが原則です。かぜの症状があったり、下痢や嘔吐、発疹がある場合などは、程度にもよりますが見合わせましょう。
- 受ける予防接種について、保護者が必要性や効果、副作用などを理解していますか？
- 予診票への記入は済ませましたか？
- 脱ぎ着させやすい服装ですか？
- 母子健康手帳、記入を済ませた予診票を持ちましたか？
必要に応じて、健康保険証、医療機関の診察券も持ちましょう。



注意が必要なお子さん

以下に該当するお子さんについては、予防接種を受けるときに注意が必要です。事前に主治医に相談したり、予診のとき医師によく相談しましょう。



- ① 心臓病や腎臓病、肝臓病、血液の病気および発育障害などの基礎疾患がある。
- ② 予防接種で接種後2日以内に高熱が出たり、全身性発疹などのアレルギー反応を起したことがある。
- ③ 接種を受けようとするワクチンの成分で、アレルギーを起す恐れがある。
- ④ 過去にけいれん(ひきつけ)を起したことがある。
- ⑤ 免疫不全の診断を受けている、または近親者に先天性免疫不全の者がいる。
- ⑥ BCG接種を受けるにあたっては、過去に結核患者との長期接触があったり、結核感染の疑いがある場合。

こんな場合は受けられません

- ① 明らかなる発熱(37.5℃以上)がある
- ② 重い急性の病気にかかっている
- ③ 接種を受けようとするワクチンの成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある
- ④ BCG接種を受ける場合、外傷などによるケロイドが認められる
- ⑤ その他、予診で医師が予防接種を行うのが適当でないと判断したとき

アナフィラキシー

通常、ワクチンを接種後、30分以内に起こる激しいアレルギー反応のこと。口唇が腫れる、じんましんが出る、顔色が青ざめる、嘔吐、息が苦しくなるなどの症状が出て、ショック状態を伴います。

予防接種を受けたあとの注意事項



- 予防接種を受けたあと30分くらいは、受けた医療機関や施設で様子を見るか、医師とすぐに連絡を取れるようにしてください。
- 接種当日は、激しい運動は避け、安静に過ごします。
- 接種部位は清潔に。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないでください。
- 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応が現れないかどうが注意します。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、すみやかに医師の診察を受けてください。

予防接種による健康被害救済制度

予防接種による健康被害が生じた場合、救済制度が受けられます。所定の手続き・審査の上、認定された際に給付が決定されます。


予防接種法による救済

予防接種法で定められた予防接種を、定められた年齢で受けて起こった健康被害は、予防接種法に基づいて救済の給付が受けられます。医療を受ける必要や、障害が残るなどの健康被害が起こった場合、給付申請をするには、診察した医師、保健所、お住まいの市区町村の担当部署へご相談ください。

(独)医薬品医療機器総合機構による救済

任意接種や定期の予防接種を、定められた期間を外れて接種した場合に起こった健康被害は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて救済されます。独立行政法人医薬品医療機器総合機構にご相談ください。

ホームページ <http://www.pmda.go.jp/> **電話** 0120-149-931

この冊子に収録されている情報は、平成21年11月現在のものです。
© 髙社会保険出版社
禁無断転載 40131
 PRINTED WITH SOYINK
環境にやさしい大豆インキを使用しています
古紙パルプ配合の再生紙を使用

MediquickBook **ワイド版**

メディクイックブック PART1

監修 水島 裕

編集 鈴木 康夫

第1部

患者さんによくわかる 薬の説明

本書の特色

- 1.臨床面を重視し、すべて第一線医師が執筆
- 2.コピーして患者さんに渡せます
- 3.年度版で最新情報を提供し、薬害や重篤な副作用を予防



金原出版



薬の説明

10. その他(漢方薬・ビタミン・点眼薬など)
m. ワクチン3)

ディー・ビー・ティー

しゅこんごう

DPT3種混合ワクチン

—ジフテリア(D)・百日咳(P)・破傷風(T)—

ジフテリア、百日咳、破傷風の3つの病気を防ぐためにつくられた混合ワクチンです。

●どんな病気か

ジフテリア：ジフテリア菌の感染によって起こります。感染した場所によって、**咽頭(のど)**ジフテリア、**鼻ジフテリア**になります。高熱、喉の痛み、犬が吠えるような咳などが出るのが特徴です。重症になると呼吸困難などを起こし、死亡することもあります。発病2～3週間後には、菌の出す毒素によって心臓の筋肉や神経がおかされることがあります。最近では日本ではほとんど見られませんが、1990年代にはロシアなどで流行が見られました。

百日咳：百日咳菌によって起こる呼吸器感染症です。ひどい、長い咳が続き、顔を真っ赤にして連続的に咳こむのが特徴です。1歳未満の赤ちゃんでは、咳の発作で脳に酸素がいかなくなったり、菌が出す毒素で脳に障害が起きたりすることがあります。近年、年長者の患者さんが増えており、乳幼児への感染源になりつつあることが指摘されています。

破傷風：土の中に棲んでいる破傷風菌によって発症します。この菌は空気に弱く、空気に触れると死んでしまいます。けがをしたときなど、傷口から菌が体の中に深く侵入したときに感染します。発症すると、口が開かなくなったり、呼吸ができなくなったり、けいれんを起こしたりする、死亡率が高い恐ろしい病気です。

●接種方法

定期接種では、第1期として生後3～90カ月の間に4回接種することになっています。初回免疫として20～56日までの間隔で3回接種し、その後追加免疫として12～18カ月後に1回接種することが望ましいとされています。

その後は、第2期として、ジフテリアと破傷風の2種混合ワクチンを小学6年生(11歳)に1回接種することになっています。

●効果

ワクチンを初回、追加接種をすることで、90～100%の人に免疫ができます。

●副反応

1. 注射したところが赤くなったり、腫れたり、しこりになったりすることがあります。この症状ははじめての接種で10人に1人程度に、接種を重ねると半分位の方に見られます。腕に接種して、肘を越えるほど腫れる場合もありますが、きわめてまれです。
2. 発熱や不機嫌などが認められることがありますが、通常、数日程度で治ります。

あなたの薬の商品名は _____ です。

年 月 日 医師名
薬剤師名



麻疹風しん(MR)混合ワクチン

はしか(麻疹、^{ましん})と風しん(風疹)の2つの病気を予防するための混合ワクチンです。ワクチンの種類は生ワクチン(毒力を弱めたウイルスを含むワクチン)です。それぞれの病気を予防できる、麻疹ワクチンと風しんワクチンもあります。

はしか(麻疹、麻疹)：はしかは、麻疹ウイルスの空気感染によって起こり、感染力が強く予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。はしかにかかると39～40℃の高熱と発疹が見られ、ときに肺炎・中耳炎・気管支炎・脳炎などの合併症を併発し死亡することもあります。はしかにかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。治療薬はなく、予防接種による予防が重要です。日本は2012年までに国内からの麻疹排除を目指しています。

風しん(風疹)：風しんは風しんウイルスの感染によって起こる病気です。全身に発疹が出て、首の後ろのリンパ節が腫れたりします。流行期は春先から初夏にかけてで多くの患者発生が見られます。別名「三日ばしか」ともよばれるように、軽いはしかに似た病気ですが、免疫のない妊婦が妊娠初期にかかると、^{はくがいしやう}白内障・心疾患・難聴などを患う先天性風疹症候群児が出生することがあります。

●接種方法

第1期：1歳児、第2期：小学校入学前1年間の小児の合計2回接種が原則です。

さらに、2008年4月から5年間の期限つきで、第3期：中学校1年生に相当する小児、第4期：高校3年生に相当する方にも接種します。麻疹風しん混合ワクチンの接種が基本ですが、麻疹ワクチン、風しんワクチンも接種できます。

●効果

ワクチンを接種することで、麻疹については95%程度、風しんについてはほぼすべての人に免疫ができます。

●副反応

生ワクチンのため、体内でウイルスが増えます。そのため、接種後4～14日の間に10人に1～2人程度の割合で発熱・発疹が見られます。また、接種したところが赤くなったり腫れたりすることがありますが、数日で治ります。第3期、第4期のような年長者での接種では、^{けつかくなんまいそうしんけいはんしやう}血管迷走神経反射(用語の説明)参照)が見られる場合があります。

●接種するときの注意

まれにアナフィラキシー(用語の説明)参照)や血管迷走神経反射など、急な副反応が現れる場合があります。ワクチンを受けたあと30分間は、接種場所で様子を観察しましょう。また、妊娠されている方、あるいはその可能性がある方は接種できません。さらに接種後2ヵ月間は妊娠を避けてください。

〔用語の説明〕 血管迷走神経反射

極度の緊張状態や接種に伴う痛みなどにより自律神経系が刺激され、全身の血管が拡張することにより脳血流が低下し、^{がんめんそうはく じよみやく}顔面蒼白、徐脈、血圧低下、失神といった反応が接種後30分以内に起こります。予防接種に限らず、注射や献血の際に起こる場合もあります。通常横になって休むだけで回復します。

アナフィラキシーショック

薬物などアレルギーを起こす物質が体の中に入ったときに起こる反応をアナフィラキシーといいます。アナフィラキシーの中でも、激しい全身反応を伴うものをアナフィラキシーショックといいます。血圧が低下し、脈が弱まり、顔面蒼白となって、じんま疹・吐き気・息が苦しいなどの症状に続き意識を失います。適切な治療を速やかにとる必要があります。

あなたの薬の商品名は _____ です。

年 月 日 医師名
薬剤師名